

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野
学籍番号	14S3031	院生氏名	柴田 滋子
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	訪問看護師の業務特性がバーンアウトに与える影響		
審査結果(枠で囲む)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 合格 不合格 </div>		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について：超高齢社会の進展とともに、地域において重要性を高める訪問看護師の役割にもかかわらず、病院勤務の看護師らに比して高率にみられる離職を食い止めるべく、その業務特性がバーンアウトに与える影響を調べて、離職防止に向けた方策を探る研究である。 2つの研究からなるいわゆる mixed methods を用いたもので、まず、訪問看護師13名を対象に、仕事上感じる困難感を、半構造化面接を通じて内容分析の手法により分析した。この研究前半から得られた7つのカテゴリーから新たに24項目の質問を作成、先行する①コミュニケーション能力の19項目、②キャリアコミットメントに関わる8項目に追加して説明変数となるように整理した。次いで、訪問看護師559人から調査票回答を得て基本データとし、世界的に使用されており、疲弊感、シニシズム、職務効力感からなるバーンアウト尺度 MBI-GS を目的変数とし、個人属性7項目、職場環境を説明変数に加えて、多変量解析を行った。まず単相関を調べて、有意確率が0.2未満の変数を最終の説明変数として、stepwise 式の重回帰分析を行い、MBI-GSの総合得点、3つの下位尺度への影響をみた。 その結果、訪問看護師のバーンアウトに対し、利用者の意見を入れた自己決定への支援、利用者の持っている力を生かせる関わり方、時間管理などのマネージメントなどが影響し、ほかにキャリアコミットメントや配偶者の有無などの個人要因、休暇の取りやすさ、私生活の満足度なども関係していた。これらをもとに離職防止への提言もまとめている。 副論文については、審査開始時に、刊行すみの論文1編を確認した。</p> <p>2. 審査会は第1回を12月14日に開催したが、質的研究部分の方法論の記載不足、新たに作成した24項目の質問項目の由来や導入根拠、説明変数としてまとめる中での整理や関連文献の引用、などいくつかの問題点があったために、論文の修正を求めた。2週後の12月27日に再提出された論文で、各指摘事項に関して適切に追加修正されたことを確認した。</p> <p>3. 論文の口頭発表、審査での試問において明瞭な発表を行い、結果の解釈などについての質問に的確に答え、指摘された部分については真摯に対応した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	赤居 正美	
	副査	佐藤 みつ子	
	副査	白石 裕子	